

豊田PCB廃棄物処理施設の状況報告について

1 豊田PCB廃棄物処理事業の処理実績報告

(1) PCB廃棄物の処理実績

PCB廃棄物の処理量（投入ベース）

平成24年10月末現在

	(注1) トランス類 (台)				(注2) コンデンサ類 (台)			(注3) 廃PCB (本)	純PCB 処理量 (トン)
	大型	小型	車載	合計	普通	連結	合計		
試運転時 H17年6～8 月	1	5	8	14	447	0	447	33	5.0
操業時 (H17年9月～)									
H17年度合計	10	39	0	49	991	0	991	0	26.8
H18年度合計	17	50	3	70	1,359	1	1,360	1	63.7
H19年度合計	23	156	21	200	2,379	82	2,461	30	115.8
H20年度合計	36	235	24	295	3,762	171	3,933	(※) 15	186.4
H21年度合計	40	224	26	290	4,738	103	4,841	46	199.3
H22年度合計	34	131	22	187	3,772	30	3,802	60	162.9
H23年度合計	31	84	21	136	3,923	0	3,923	36	144.5
H24年4月	4	11	3	18	496	9	505	8	23.7
H24年5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
H24年6月	4	24	3	31	505	0	505	11	18.8
H24年7月	4	8	3	15	534	4	538	20	16.9
H24年8月	5	8	2	15	516	0	516	4	27.1
H24年9月	3	28	3	34	557	0	557	2	20.0
H24年10月	4	20	3	27	666	0	666	0	24.2
H24年11月									
H24年12月									
H25年1月									
H25年2月									
H25年3月									
H24年度合計	24	99	17	140	3,274	13	3,287	45	130.8
操業期間合計	215	1,018	134	1,367	24,198	400	24,598	233	1,030
全処理量	216	1,023	142	1,381	24,645	400	25,045	266	1,035

(注1) : トランス類とは、変圧器、変流器、リアクトル等を含む。大型トランスとは重量が1.62tを超えるもの又は小型トランス解体ラインでは処理できないもの。

(注2) : 普通コンデンサはサージアブソーバーを含む。連結コンデンサは小型コンデンサ2～18個がセットになったもの。(セット数)

(注3) : 廃PCBとはドラム缶やペール缶入りの廃PCB油

(※) H20年度はペール缶7本、21年度11月はペール缶1本を含む。その他はすべてドラム缶

(2) 有価物及び産業廃棄物の払出実績

有価物及び産業廃棄物の払出量

単位 トン

平成24年10月末現在

	有価物		産業廃棄物						払出物
	鉄類	銅類	廃TCB	液処理 残渣	含浸物	碍子・ ガラス	廃活性 炭 (PCB 非含有)	廃プラス チック類 等	合計
H17年度合計	24.7	0.2	6.3	162.6	28.4	1.4	0.0	0.0	223.6
H18年度合計	86.4	14.9	30.2	393.7	36.7	3.2	0.0	0.0	565.1
H19年度合計	168.4	22.5	41.1	688.7	67.7	6.3	0.0	4.0	998.7
H20年度合計	279.5	43.7	63.6	1,188.4	84.4	10.2	6.0	14.0	1,689.8
H21年度合計	294.1	44.3	77.6	1,282.3	97.4	11.5	5.3	10.0	1,822.5
H22年度合計	220.7	28.1	56.0	1,020.1	73.5	10.1	3.6	6.1	1,418.2
H23年度合計	222.3	31.9	48.6	894.3	70.5	9.3	2.9	8.9	1,288.7
H24年4月	25.7	3.5	7.0	144.5	12.6	2.1	0.3	2.0	197.8
H24年5月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
H24年6月	30.6	2.5	6.9	121.2	10.7	1.1	0.0	1.1	174.1
H24年7月	29.5	6.2	12.4	120.7	8.5	1.4	0.8	0.9	180.4
H24年8月	43.8	5.4	7.0	152.6	11.2	0.9	0.0	1.6	222.5
H24年9月	29.8	3.2	7.9	126.0	11.5	1.2	0.7	0.7	181.0
H24年10月	35.1	6.9	7.8	130.6	11.8	1.4	0.0	1.6	195.2
H24年11月									
H24年12月									
H25年1月									
H25年2月									
H25年3月									
H24年度合計	194.5	27.7	49.1	795.5	66.3	8.1	1.8	7.9	1,151.0
操業期間合計	1,490.6	213.3	372.6	6,425.6	524.9	60.1	19.6	50.9	9,157.6

* この表はPCB廃棄物の処理に伴い発生するものであるが、この他、分析廃液などの産業廃棄物も払い出している。

* 廃プラスチック類は大半が洗浄処理後の使用済み化学防護服である。

(3) 東海4県PCB廃棄物の処理状況 (平成24年10月末現在)

①機器別に見た状況

- ・大型トランスは、373台登録されていますが、豊田市内には対象機器が存在せず、愛知県内で80.4%の処理が終わっており、全体では54.4%を処理しました。
- ・小型トランスは、1439台登録されていますが、豊田市内のものは処理が終了、愛知県内でも83.5%の処理が終わっており、全体では73.0%を処理しました。
- ・車載型トランスは、800台登録されていますが、豊田市内には対象機器が存在せず、静岡県内で17.8%を処理しました。
- ・コンデンサ(健全品)は、46,388台登録されていますが、豊田市内のものは93.9%、愛知県内では73.0%の処理が終了し、全体では54.2%を処理しました。
- ・特殊形状コンデンサは、4,976台登録されていますが、処理が進んでいません。
- ・PCB油類はほとんどがドラム缶に保管されており、609缶登録されていますが、豊田市内のものは処理が終了し、愛知県内で60.5%、全体では43.8%を処理しました。
- ・保管容器は、中に漏洩機器が保管されているものもあり、処理が進んでいません。

②事業場別に見た状況

東海4県には、8,605の事業場が登録されています。豊田市内では89.4%の事業場からPCB廃棄物受け入れを実施しており、愛知県内では76.0%、全体では53.8%の事業場より受け入れました。

JESCO登録実績 (試運転搬入物を含みます)

区域名称	事業場数	大型トランス 台数	小型トランス 台数	車載トランス 台数	コンデンサ 台数	特殊形状 コンデンサ数	PCB油 缶数	保管 容器数
豊田市	273		10		5,569	796	4	243
愛知県	3,741	179	599	2	19,041	1,536	281	513
岐阜県	1,362	17	145		4,372	450	22	159
静岡県	2,295	34	438	798	11,119	1,473	195	355
三重県	934	143	247		6,287	721	107	144
合計:	8,605	373	1,439	800	46,388	4,976	609	1,414

受け入れ済台数

区域名称	事業場数	大型トランス 台数	小型トランス 台数	車載トランス 台数	コンデンサ 台数	特殊形状 コンデンサ数	PCB油 缶数	保管 容器数
豊田市	244		10		5,231	0	4	31
愛知県	2,843	144	500	0	13,895	0	170	0
岐阜県	349	0	103		1,133	0	0	0
静岡県	950	12	224	142	3,619	0	49	0
三重県	244	47	214		1,270	0	44	0
合計:	4,630	203	1,051	142	25,148	0	267	31

進捗率

区域名称	事業場数	大型トランス	小型トランス	車載トランス	コンデンサ	特殊形状 コンデンサ	PCB油	保管 容器
豊田市	89.4%	—	100.0%	—	93.9%	0.0%	100.0%	12.8%
愛知県	76.0%	80.4%	83.5%	0.0%	73.0%	0.0%	60.5%	0.0%
岐阜県	25.6%	0.0%	71.0%	—	25.9%	0.0%	0.0%	0.0%
静岡県	41.4%	35.3%	51.1%	17.8%	32.5%	0.0%	25.1%	0.0%
三重県	26.1%	32.9%	86.6%	—	20.2%	0.0%	41.1%	0.0%
合計:	53.8%	54.4%	73.0%	17.8%	54.2%	0.0%	43.8%	2.2%

(4) 周辺環境への影響の状況

○ 排出源モニタリング

操業開始から平成24年7月末現在

要素	調査項目	これまでの最大値 (カッコ内は測定年月)		平成24年度		管理目標値等	単位
				4月	7月		
排気	PCB	1~4系	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.01	mg/m ³ N
		5系	0.001未満	0.001未満	0.001未満		
		6系	0.001未満	0.001未満	0.001未満		
	ダイオキシン類	1~4系	0.026 (H18.10)	0.00050	0.0023	0.1	ng-TEQ/m ³ N
		5系	0.000052 (H18.9)	0.0000012	0.0000031		
		6系	0.000058 (H18.10)	0.00000072	0.0000017		
ベンゼン	1~4系	2.2 (H22.10)	0.5未満	0.5未満	50	mg/m ³ N	
	3-2系	71 (H19.1)	0.5未満	0.5未満			
排水 (放流口)	PCB	0.0005未満		0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	mg/L
	ダイオキシン類	0.13 (H19.2)		0.033	0.012	5	pg-TEQ/L
	その他有害物質	未検出		—	—	規制基準の1/10	
騒音	騒音レベル	昼間	69 (H19.1)	—	—	70	dB(A)
		夜間	68 (H19.1)	—	—	65	
振動	振動レベル	昼間	49 (H21.1)	—	—	70	dB
		夜間	48 (H22.2)	—	—	65	
悪臭	アセトアルデヒド	0.039 (H20.10)		—	—	0.05	ppm
	トルエン	0.9未満		—	—	10	ppm
	キシレン	0.1 (H18.9)		—	—	1	ppm
	その他特定悪臭物質	未検出		—	—	規制基準 (第1種地域)	

(注1) 豊田施設のPCB処理工程においては、工程排水は発生しません。

(注2) 排水の「その他有害物質」、悪臭の「その他特定悪臭物質」については、稼働後の年1回の測定で未検出であったため、その後の毎年の測定は行っていません。

○ 周辺環境モニタリング

操業開始から平成24年7月末現在

要素	調査項目	これまでの最大値 (カッコ内は測定年月)		平成24年度		環境基準値等	単位
				4月	7月		
大気	PCB	0.0041 (H22.7)		0.0024	0.0039	年平均0.5 (注1)	µg/m ³
	ダイオキシン類	0.057 (H20.1)		0.017	0.028	年平均0.6 (注2)	pg-TEQ/m ³
	ベンゼン	0.0031 (H22.10)		0.001	0.0009	年平均0.003 (注2)	mg /m ³
土壌	PCB	0.0005未満		—	—	検出されないこと (0.0005未満)	mg/L
	ダイオキシン類	1.5 (H23.10)		—	—	1000	pg-TEQ/g
地下水	PCB	0.0005未満		0.0005未満	—	検出されないこと (0.0005未満)	mg/L
	ダイオキシン類	0.075 (H19.2)		0.045	—	1.0	pg-TEQ/L

(注1) 評価基準値「PCB等を焼却処分する場合における排ガス中のPCBの暫定排出許容限界について」(昭和47年12月22日付 環境庁大気保全局長通達)で示される環境中のPCB濃度。

(注2) ダイオキシン類及びベンゼンの大気環境基準は、豊田施設の存在する工業専用地域には適用されません。